

新聞に親しみをもち、進んで学び、発信する生徒の育成

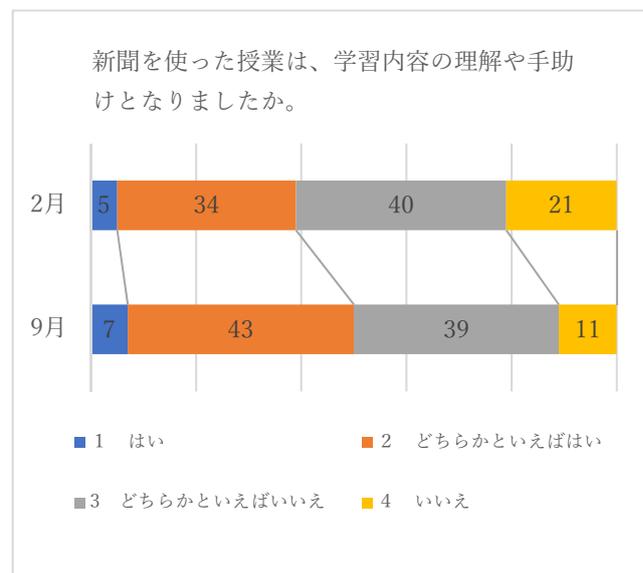
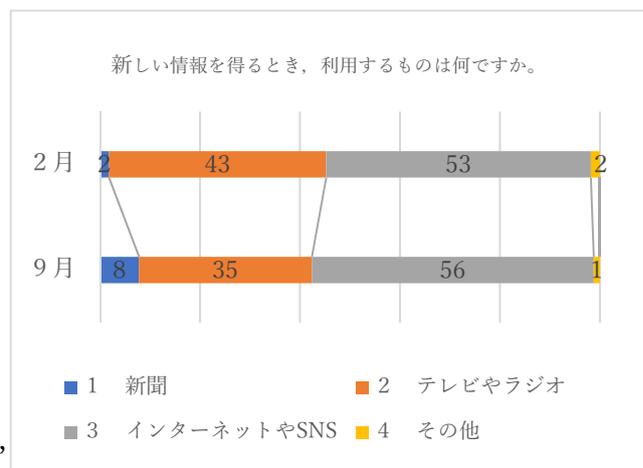
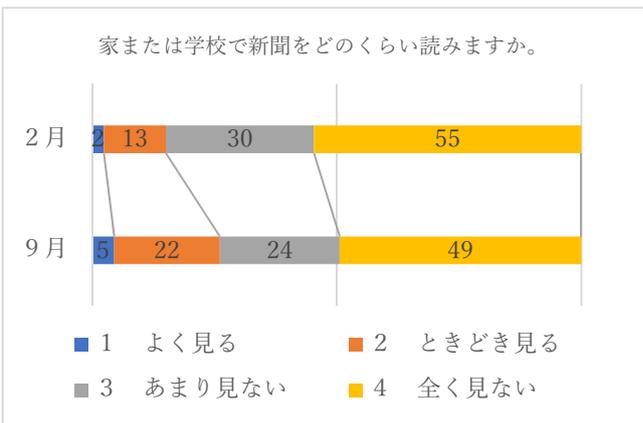
南魚沼市立大和中学校

1 NIE 実践のねらい

(1) 生徒の実態と課題

昨年度2月と今年度9月に全校生徒を対象に行った校内アンケートの結果から、2回ともおよそ65%の生徒が家庭で新聞を購読していることが分かった。「家または学校で新聞をどれくらい読みますか」という質問に対して、2月は「よく見る」と「ときどき見る」という肯定的に回答をしている生徒が15%であったが、9月に行ったアンケートでは、27%と10%以上増加した。しかし、依然として「全く見ない」という生徒が半数を占めた。次に「新しい情報を得るとき、利用するものは何ですか」という質問に対して、2月は「新聞」と答えた生徒は全体のわずか2%であったが、9月では8%と4倍になった。昨年からのNIE取り組んだことで、新聞に親しむ機会が増えたことが成果として挙げられる。しかし、新聞を読む生徒が微増した一方で、「インターネットやSNS」の回答が3%増加している。家庭で新聞を購読しているが、新聞を読む習慣がない生徒が大半であることが課題として残った。

昨年度から生徒が新聞に親しむ活動として「NIE コーナー」の設置、「NIE タイム」の実施、そして授業実践を行ってきた。特に、授業実践において新聞記事を積極的に取り入れたことで「新聞を使った授業は、学習内容の理解や学ばきっかけとなったか」という質問に対し、肯定的な回答が10%上昇した。また、「い



いえ」と回答した生徒が10%減少したことは、授業内容に関わる新聞記事を読むことで興味・関心が高まり、学習意欲の向上につながった。更には学習内容を理解することの手掛かりにもなっていたと考える。このことから、新聞を読む機会を与えれば、生徒の「学びに向かう力」＝「学びを生活の中に生かそうとする態度」の向上につながると考えられる。

(2) 校内研修とNIEとの関連

今年度の校内研修では「学びに向かう力を育む授業づくり～課題提示と学習形態の工夫をとおして～(2年次)」を研究主題としている。「学びに向かう力」を明確にし、「課題提示」と「学習形態」の2点を工夫した学習活動を積み重ねることを通して、「学びを生活の中に生かそうとする態度」の育成を目指している。これを受けてNIEでは、新聞活用を通して、生徒に身に付けさせたい力を以下の3つとした。

- | |
|------------------------------|
| ① 社会への関心をもち、自分に必要な情報を取捨選択する力 |
| ② 自分の考えを整理し、根拠をもって他者に説明できる力 |
| ③ 他者と共に新たな問題を見出し、追究・解決していく力 |

(3) 授業における手立て

① 課題提示と学習形態の工夫

授業の導入における「課題提示」と、展開における「学習形態」の課程において、各教科において手立てを設定する。

課題提示の工夫	① 内容：生徒にとって身近に感じる題材、実生活や社会と関連のある題材など ② 方法：実物を見せる、ICTを活用する、タイミングを工夫する、クイズなど
学習形態の工夫	ペア活動、グループ活動、ジグソー法、ディベート、ラウンド・ロビン、Think-Pair-Share など

② 授業におけるユニバーサルデザイン化

特別な支援が必要な生徒を含め、全ての生徒にとって分かりやすく安心して参加できる授業をするためにUDLを意識した授業づくりに努める。

焦点化 (ア) 授業のねらいや活動をしぼる。 (イ) 付けたい力を具体的にする。 (ウ) 発問を具体的な言葉で行う。	視覚化 (ア) 言葉だけでなく、学習内容や学習教材を視覚的に提示する。 (イ) 見えないイメージや論理を図や表などを使って「見える化」する。 (ウ) 実物や半具体物などを提示し、課題を明確にする。	共有化 (ア) 互いの考えを伝え合ったり、確認させたりする。 (イ) 「できる」生徒には、自分の意見を深めさせ、理解に不安がある生徒には、自分の意見に足りない部分を補わせる。
--	--	--

③ NIE と研究主題の関連

各教科の授業で特に「課題提示」と「学習形態」で新聞を活用する場面を設定し、生徒の思考を揺さぶる手立てとして、NIE を活用していく。

- 課題提示…新聞記事を活用した学習課題を設定する。
- 学習形態…ペア活動やグループ活動の課題解決学習の根拠となる資料として活用する。

3 本年度実践の概要

(1) 日常活動における新聞の活用

① 新聞記事のスクラップの作成

昨年度から各委員会，部活動，全職員で毎月スクラップを作成している。選んだ記事についての考えをコメント欄に書き，全校生徒が閲覧できる「NIE コーナー」に掲示した。

委員会と部活動ごとに掲示したことで，様々な分野の記事がスクラップとして多くの生徒の目に触れることができた。回数を重ねるごとに生徒は多くの新聞記事に目を通すようになり，スクラップのコメントも充実したものになっていった。スクラップ作成活動を続けてきたことで，この活動以外でも「NIE コーナー」にある新聞を読む生徒が多くなった。



委員会と部活動ごとに掲示したことで，様々な分野の記事がスクラップとして多くの生徒の目に触れることができた。回数を重ねるごとに生徒は多くの新聞記事に目を通すようになり，スクラップのコメントも充実したものになっていった。スクラップ作成活動を続けてきたことで，この活動以外でも「NIE コーナー」にある新聞を読む生徒が多くなった。

② NIE ワークシートの活用

朝活動の時間に「NIE タイム」として，読売新聞社から配信されるワークシートを活用し，全校で取り組んでいる。ワークシートは実際の新聞記事を用いて作成されており，生徒の記事内容を読み取る能力を高めたり，世の中の情勢についての知識を広げたりすることができた。活用したワークシートは学級担任が点検した後，各学級で掲示し，他の生徒がいつでも見ることができるようにした。



(2) NIE 校内授業研修 (6月11日)

教科	学習課題
社会科	異なる文化の人々と仲良く生活をしていくためには，どんな考え方が大切か考えよう。
保健体育科	なぜ運動することは大事なのか考えよう。
理科	スロープで「仕事」は変化するだろうか。

社会科，保健体育科，理科の3教科で授業研修を行った。社会科では，異文化への理解を深めるために，イスラム教徒の人々の食生活に関する新聞記事を活用し，異文化理解についての学習を行った。保健体育科では，運動の重要性について，ストレス解消や免疫力の向上など運動による効果を扱う新聞記事を活用した学習を行った。理科では，ユニバーサルデザイン化のため町にスロープを設置するという新聞記事から学習課題を設定し，仕事の大きさを調べる実験を行った。

どの教科の実践においても，新聞記事の活用の仕方について学ぶ良い研修となった。学習課題の設定では，写真や見出し，リード文を活用して少ない情報から考えさせること，学年に応じた新聞記事の使い方や新聞記事の精選が単元を構成するために重要であることが理解できた実践であった。



(3) いじめ見逃しゼロスクール集会（11月4日）

大和中学校区区の小学6年生と中学2年生が「いじめ」に関する新聞記事を読み，中学生と小学生が小グループとなって，いじめについて考える活動を行った。全員が同じ記事を読み，個性を尊重することやその「違い」について認めることについて，意見を交換しながら理解を深めることができた。



4 授業実践（10月29日研究発表）

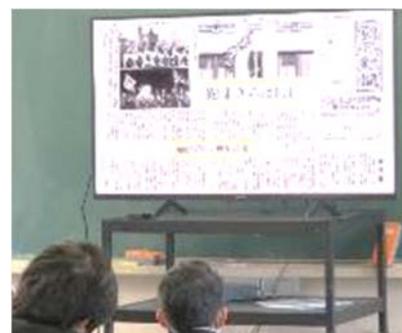
(1) 1学年 社会科地理的分野「なぜイギリス国民はEU離脱を選んだのか」

① ねらい

- ・イギリスのEU離脱に関する新聞記事を読むことを通して，イギリスがEUを離脱した理由を理解することができる。
- ・EUのメリットとデメリットをふまえて，日本の立場から地域統合について，自分の考えを表現することができる。

② 授業の実際

前時で，EU統合への変遷とEUのメリットについて学習し，EUの良さについてワークシートにまとめさせた。本時では，まず前時で学習したこととのズレを生み出すために，新聞記事の写真や見出しを使い，イギリスがEU離脱を選んだこと



をつかませた。学習課題を「なぜイギリスはEUを離脱したのだろうか」と設定し、4種類の新聞記事を小グループごとに配付してその理由を考えさせた。グループの1人が1枚の新聞記事を担当するエキスパート活動を行い、その後のジグソー活動で意見交換をして、EU離脱の理由をまとめさせた。最後に、「日本もEUに見習うべきだ」という記事を提示し、これについて生徒一人一人に日本の立場から地域統合について考えさせた。



それぞれの新聞記事を読み込んでいる様子

<生徒の振り返り（ワークシートの記述から）>

- ・今回の授業で、EUのルールや国家間の差への不満があることがわかった。国ごとに立場が違うから、すべての国の視点で考えると「EU」が良いのか悪いのか分からなかった。
- ・イギリスがEUを抜けた理由を聞き、少し悪いところもあるんだなと思った。他の国は補助金の方が多いのに、イギリスは負担金の方が多いからそれだとイギリスの人々が不公平感を感じるのとは仕方ないと思った。



新聞記事をもとに、意見交換をしている様子

(2) 2 学年 保健体育保健分野「健康な生活と病気の予防」

① ねらい

- ・飲酒が心身に与える影響を理解することができる。
- ・飲酒についての知識や経験、新聞記事をもとに正しい行動を判断することができる。

② 授業の実際

生徒は毎日の生活や授業を通して、健康な生活を送るために食事や睡眠、運動が大切であることを理解している。本単元では、飲酒や喫煙などについて、未成年で禁止されているが、なぜ禁止されているのか、健康にどのように影響するのかを学び、今後の生き方について考えさせることとした。本時では、学習課題を「20歳を超えた『自分』はお酒とどう付き合っていくか考えよう」と設定し、2種類の新聞記事を配付し、飲酒によるメリットとデメリットについて考えさせた。グループによる意見交換をした後、今後の自分がとる行動について考えをまとめさせた。



新聞記事を読み、メリット・デメリットを付箋に書き込む様子



個人で記入した付箋をグループで共有している様子

<生徒の振り返り（ワークシートの記述から）>

- ・私は適度に飲んで、お酒と楽しく付き合っていきたい。新聞を読んで、お酒を飲み過ぎると危ないことがわかった。体調を悪くする原因にもなるので、将来友達にはお酒は勧めないと思う。
- ・私は新聞を読んで、お酒は病気になるリスクが高まるので飲みたくないと思いました。友達にも同じようになってほしくないなので、お酒は勧めないと思います。

5 成果

新聞購読を終えた12月に生徒に事後アンケートを取った結果、右のグラフのような結果となった。

「新聞を読む機会が以前より増えたか」の質問に対して肯定的回答をした生徒は30%であった。NIE活動を通して、昨年度2月の15%から9月、12月と着実に新聞を読む生徒が増加していることがわかる。しかし、否定的な回答をした生徒が70%を占めており、新聞に触れる機会を多く設定したが、生徒自身が自主的に新聞を読むようにするためには課題が残った。新聞の設置の仕方や新聞をどのように教育活動に取り入れていくか、更なる工夫が必要である。

「新聞を使った授業は、授業内容の理解や手助けとなったか」という質問に対しては、肯定的回答した生徒が73%であった。2月からの変化を見ると、活動を継続していくにつれて肯定的回答が増え、NIE活動が学習内容の理解のためにはとても有効な活動であることが分かった。生徒のアンケートからも「文章を読む力を付き、勉強するきっかけになって良いと思いました」や「世の中で何が起きているのか知る機会になったし、自分とは違う考え方もあることが分かった」と新聞を読むことの良さを気付かせることができ、NIE活動の成果が表すことができた。

2021年度より、新学習指導要領の全面实施となる。「主体的・対話的で深い学び」の実現のための手段として、NIE活動はとても有効である。しかし、新聞購読世帯が減少していることもあり、日常的に生徒が新聞を読む機会が無くなってきていることを無視することはできない。今後もNIE活動を推進していくためには更なる工夫が必要である。

(佐藤 亮介)

